

---

いわて協創グローカル人材育成プログラム

## 令和 6 年度 活動報告書



---

いわてグローカル人材育成推進協議会

## 目 次

いわて協創グローカル人材育成プログラムについて .....	1
令和6年度 いわて協創グローカル人材育成プログラム 派遣学生一覧 .....	3
派遣学生報告書 佐藤 明日香 .....	5
派遣学生報告書 館野 早希 .....	9
派遣学生報告書 菅原 真波 .....	15
派遣学生報告書 千田 翔太 .....	18
派遣学生報告書 阿部 佑沙 .....	21
派遣学生報告書 筒井 咲月 .....	25
派遣学生報告書 西村 有紗 .....	28
当協議会における海外留学派遣支援実績 .....	32
令和6年度 いわてグローカル人材育成推進協議会 年間取組状況 .....	36
「いわてグローカル人材育成推進協議会」会員企業・団体 .....	37

## いわて協創グローカル人材育成プログラムについて

### 1 目的

本事業では、「グローカル」な視点から、地域の課題や豊富なリソースを現実的かつ創造的に見極め、課題を解決するとともに、岩手県の潜在的価値を最大限に引き出し、将来の岩手県を導くリーダー人材を、産学官一体となって育成することを目指します。

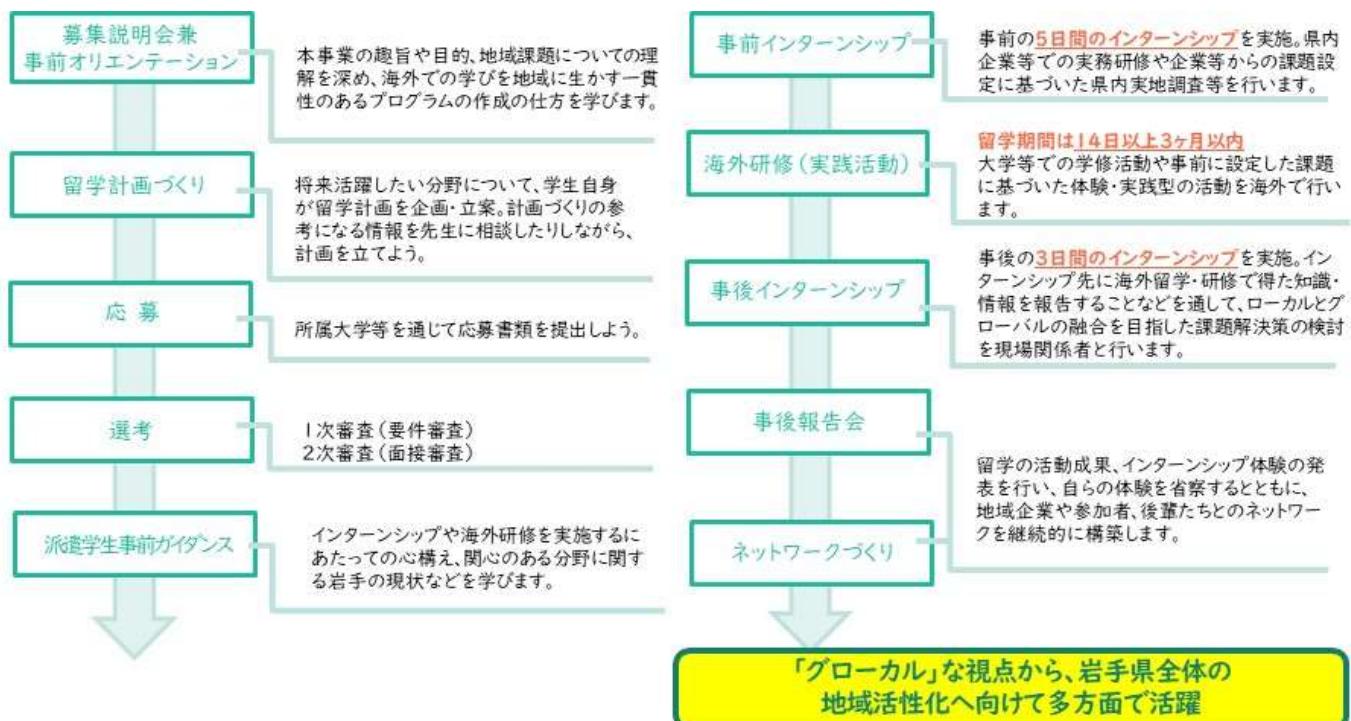
### 2 プログラム

- A. 県産品販路開拓人材育成プログラム
- B. ものづくり産業海外展開人材育成プログラム
- C. 交流人口拡大促進人材育成プログラム
- D. 持続可能型地域づくり人材育成プログラム
- E. 多様性人材育成プログラム

### 3 プログラム構成

応募予定の学生は、事前に実施される「募集説明会兼事前オリエンテーション」に参加し、本事業について理解した上で、コーディネーターや事務局に相談をしながらプログラムを作成し、応募します。

審査に合格し、採用された学生は留学期間前に事前ガイダンスに参加、県内企業などでの事前インターンシップを行った後、14日以上3ヶ月以内の海外留学・研修を行います。帰国後は、研修成果を地域に還元することを目的に、県内企業などでの事後インターンシップを行います。



#### 4 令和6年度実施スケジュール

内 容	令和6年度募集
募集期間	2/8~5/15
募集説明会	4/5, 4/12, 4/15
要件審査	5/16~5/22
面接審査	6/8
派遣学生決定	6/12
事前ガイダンス	7/13
事前インターンシップ <sup>°</sup>	留学開始前に5日以上実施
海外留学開始	8/8~3/16
事後インターンシップ	留学実施後速やかに3日以上実施
成果報告会	令和7年6月10日 ※総会と同日

## 令和6年度 いわて協創グローカル人材育成プログラム 派遣学生一覧

申請プログラム		D 持続可能型地域づくりプラン	
氏名等	佐藤 明日香 さとう あすか	岩手県立大学 ソフトウェア情報学部 ソフトウェア情報学科	4年※
留学テーマ	磯焼け、藻場再生に関する調査及び普及活動	留学先	オーストラリア
留学期間	2025年2月10日～3月7日		26日間
インターンシップ先	事前	大槌町藻場再生協議会	
	事後	大槌町藻場再生協議会	

申請プログラム		D 持続可能型地域づくりプラン	
氏名等	餘目 早希 あまるめ さき	一関工業高等専門学校 専攻科 システム創造工学 専攻	1年※
留学テーマ	～次世代へ工学の魅力を伝えるために～ フランスで学ぶSTEAM教育	留学先	フランス
留学期間	2024年9月7日～10月11日		35日間
インターンシップ先	事前	リニューアブルジャパン(株)、PLOT、 シミックCMO(株)西根工場、(株)長島製作所 前沢工場	
	事後	シミックCMO(株)西根工場、PLOT	

申請プログラム		D 持続可能型地域づくりプラン	
氏名等	菅原 真波 すがわら まなみ	一関工業高等専門学校 専攻科 システム創造工学 専攻	1年※
留学テーマ	岩手県の環境保全意識の強化と高齢化問題の対策	留学先	フランス
留学期間	2025年3月2日～3月28日		27日間
インターンシップ先	事前	Next Iwate	
	事後	Next Iwate	

申請プログラム		D 持続可能型地域づくりプラン	
氏名等	千田 翔太 ちだ しょうた	一関工業高等専門学校 専攻科 システム創造工学 専攻	1年※
留学テーマ	電気×AIで、SDGsと高齢化社会の 孤独死問題に取り組む	留学テーマ	フランス
留学期間	2024年9月9日～10月18日		40日間
インターンシップ先	事前	磐井AI(株)	
	事後	磐井AI(株)	

申請プログラム		D 持続可能型地域づくりプラン	
5	氏名等	あべ ひさ 阿部 佑沙	岩手大学 農学部 植物生命科学科
	留学テーマ	アイスランドから見る岩手の農業 ～地熱を活用して岩手の農耕活性化を図る～	
	留学期間	2024年9月2日～9月16日	
	インターン シップ先	事前	葛巻町役場くずま～る、江戸馬淵自治会、いわてユースセンターミライ ※いずれもNPO法人SETによる活動
		事後	江戸馬淵自治会 ※NPO法人SETによる活動

申請プログラム		E 多様性地域人材育成プラン	
6	氏名等	つつい さつき 筒井 咲月	岩手大学 農学部 森林科学科
	留学テーマ	岩手の森林環境のポテンシャルを 最大限に引き出す！	
	留学期間	2024年9月16日～9月30日	
	インターン シップ先	事前	NPO法人遠野エコネット
		事後	NPO法人遠野エコネット

申請プログラム		E 多様性地域人材育成プラン	
7	氏名等	にしむら ありさ 西村 有紗	盛岡大学 文学部 英語文化学科
	留学テーマ	地域に携わる日本語教師への第一歩	
	留学期間	2025年2月16日～3月16日	
	インターン シップ先	事前	TVA日本語教室、上野法律ビジネス専門学校
		事後	TVA日本語教室、上野法律ビジネス専門学校

※派遣時点の学年

# 佐藤 明日香

岩手県立大学 ソフトウェア情報学部 4年

留学先： オーストラリア メルボルン、トマキン

留学期間： 2025年2月10日～3月7日（26日間）



## 1 留学テーマ

磯焼け、藻場再生に関する調査及び普及活動

## 2 事前事後インターンシップでの取り組み内容及び成果

### ○事前インターンシップ

「磯焼けとは」藻場と呼ばれる海藻が生えている場所が消失する現象のことを指す。事前インターンシップでは、この問題解決に取り組む大槌町藻場再生協議会で、磯焼けの現状と課題を調査した。大槌町では、数年前から藻場再生活動が行われており、その成果として一部の藻場が回復している様子が見受けられた。しかし、依然としてウニが大量発生しており、ボランティアダイバーによるウニの駆除活動が行われていることが確認できた。また、藻場再生活動の見学だけでなく、昆布移植作業の手伝いや乗船も経験することができた。活動を通して特に印象に残っていることは「人と人の繋がり」である。想像以上に多くの人々がこの活動に関わっていることに驚いた。大槌町の住民の協力的な姿勢も印象的だった。また、漁協と行政との意見交換の場に出席した際には、緊張感のある場面もあったが、地域の未来を考えた重要な議論であると実感した。

### ○事後インターンシップ

自身の留学経験の報告を中心に活動した。リモート形式でのプレゼンやイベントでのポスター展示を通じて、留学での学びや現地での気づきを伝える良い機会となった。留学報告では単に良かった点や成果だけでなく、現地での失敗体験なども盛り込むことで、より現実味のある発信に繋がったと感じている。今後は大学院での研究活動やSNSなどの発信活動を通じて、地域の持続可能な水産業の実現と地域経済の活性化を目指したい。

## 3 留学先での取り組み内容及び成果

留学前半の2週間は、メルボルンの語学学校に通い、英語力の向上と様々な国籍の学生との交流を目的として活動した。私が通ったELSI English Language Schoolでは、少人数制でテキストを基に授業が進められた。最初はペアワークの際に「なぜその回答にしたの？」と聞かれてもうまく答えられず、自身の考えを英語で表すことの難しさを痛感した。しかし、テキストの予習復習を行い、事前にフレーズを準備することで、少しずつ英語でコミュニケーションを取る事ができるようになった。こ

の学校には日本人も何人かいたが、各々留学の目的やこれまでの経験が異なり、とても良い刺激になった。外国のクラスメートとの会話は、異なる文化の違いを共有し合うことができ、学びの多い時間だった。そんな中でも特に驚いたことは、時間通りに授業が始まらないことだった。私は開始5分前には教室に到着するようになっていたが、時間になっても誰もおらず、15分から20分程度遅れて始まるのが当たり前だった。日本とは大きく異なる文化に驚いた。

語学学校最終日には、授業の時間を10分程度いただき、磯焼けに関するアンケートを実施した。事前に用意した資料を使い、まずクラスメートに「磯焼けについて知っているか」を尋ねた後、磯焼けの概要や藻場再生活動について説明した。そして最後に「磯焼けについて理解できたか」「この活動に興味を持ったか」といった質問に回答してもらった。結果として、日本人の中にはニュースを見て知っていた人もいたが、海外のクラスメートは全員が磯焼けを「知らない」と回答した。しかし、私の説明で「磯焼けについて理解できた」「活動に興味を持った」という回答が多くかった。このことから、海外の人向けに磯焼けや藻場再生に関する資料を準備し、説明をすることができれば、磯焼け問題解決に向けた活動に参加する人も増えると考えられる。

留学後半の2週間は、メルボルンから夜行バスなどで約12時間移動し、トマキンという街にある Sea Urchin Harvest Pty. Ltdでインターンを行った。この企業は家族経営で、ウニの収穫から加工、販売までを専門としている。ウニの加工体験やオーストラリアの海での船上作業を経験し、日本とは異なる環境で行われている漁業の実態を学ぶことができた。

特に印象的だったのは、オーストラリアの海の厳しさだ。船上作業を通して、日本の海と比べて波が荒れることが多く、より過酷な環境下でウニが収穫されていることを実感した。また、ウニ商品の出荷プロセスは細かく規定されており、安全で高品質な製品を届けるという企業の想いが伝わってきた。さらにこの企業では持続可能な活動にも積極的に取り組んでいた。近年、ニューサウスウェールズ州に生息するウニが過剰に増殖しており、ジャイアントケルプの減少を引き起こしていることが調査で明らかになった。そのため、このウニの漁獲を通じて、海藻や魚類の生息地の回復を目指していた。また、地域内での活動だけでなく、タスマニアなどの専門家とも定期的に意見交換を行い、オーストラリア全体で海を守ろうとしていることが分かった。

このインターンを通じて、オーストラリアでは磯焼けが「white rock」や「barren」など異なる名称で呼ばれていることも確認できた。加えて、企業の方々とも良好な関係を築くことができ、帰国後も研究活動等に協力して頂けることになった。今回の留学の目標の一つでもあった「海を通して日本と世界を繋ぐ」というテーマを実現できたことは私にとってかけがえのないものとなった。今後も研究活動などを通して、この貴重な繋がりを大切にしていきたい。

#### 4 当プログラムに参加しての感想・協賛企業へのメッセージ

この度はご支援いただきありがとうございました。このプログラムに参加させていただき、自分にとって様々な面で成長することができました。英語力向上やオーストラリアでの磯焼け、藻場再生の

調査・発信という目標を達成できただけでなく、多くの異文化交流を通して気づいた部分も自分にとって大きな宝物になりました。初めての海外経験かつ一人での留学であったため、最初は異国の環境に戸惑う場面も多くありましたが、自分から積極的に行動し、気持ちを一生懸命伝えることが大事であることを学びました。また、海外経験だけでなく、県内企業にインターンすることで地域を知ることができる点も、このプログラムならではの魅力だと感じています。このプログラムを通じて、自分の視野が広がったとともに、より一層研究に対するモチベーションも向上しました。4月から大学院に進学するため、今後は研究活動に注力し、国際会議での発表を目標に引き続き自身の活動を頑張っていきたいと思います。ご支援いただき本当にありがとうございました。

## 5 留学費用について

- ・総費用：約 62 万円  
(内訳 渡航費 17 万円、学費 11 万円、宿泊費 11 万円、移動費 10 万円、食費 5 万円、ビザ(ETAS)・保険料・パスポート費用 2 万円、通信費 1 万円、おみやげ代 5 万円)
- ・費用負担 自己負担 22 万、奨学金 40 万円

オーストラリアの留学中は、国内の長距離移動が多かったため、国内線の航空券や夜行バスで交通費が予想以上にかさんだ。食事に関しては、オーストラリアの外食は比較的高額で、1回あたり約 2000 円から 4000 円程度かかる。そのため、外食は友人に誘われたときだけに抑え、普段は自炊を中心に生活した。スーパーの食費については、日本と同等かそれ以下に抑えられるため節約に繋がった。さらに、オーストラリアではキャッシュレス決済が広く普及しているため、現地ではほとんど現金を使用しなかった。万が一必要になっても都心部では ATM が多く、キャッシングが容易にできるため、大きな不便を感じることはなかった。

## 6 語学力について

留学前は TOEIC の勉強を通じてリスニングやリーディングの向上に努めていたが、スピーキングの練習時間はほとんど取れず、不安を抱えたまま出国した。メルボルン到着後は相手の質問に対してどのように返答したらよいかわからず「I don't know」「sorry」などのフレーズで済ませる場面が多々あった。しかし、このままではだめだと思い、語学学校のクラスメートやホストマザーと積極的に会話をするよう心がけた結果、英語を話すことへの抵抗がなくなった。英語が得意でなくても、「相手の話していることを理解したいという気持ち」と「笑顔」を大切にすることで、円滑なコミュニケーションが取れることを実感した。しかし、留学後半に訪れたトマキンでは、オーストラリア特有の訛りに苦戦し、思うように意思疎通ができない悔しい経験をした。自分の英語もほとんど伝わらず、初めての「言語の壁」を痛感し、とても苦しい期間であった。この経験をバネに、帰国後も英語学習を継続し、多くの人々とコミュニケーションを取ることを目標に頑張っている。

## 7 留学中のスケジュール

前半 2週間

曜日	午前	午後
月曜	授業	観光
火曜	授業	友達とご飯
水曜	授業	友達とご飯
木曜	授業	ホストマザーとお話し、アンケート実施
金曜	授業、アンケート実施	買い物
土曜	観光	夜行バスで移動
日曜	バスで移動	買い物

後半 2週間

曜日	午前	午後
月曜	ウニのパッキング	ウニのパッキング ルームメイトの誕生日パーティー
火曜	船業務見学	船業務見学
水曜	船業務見学	船業務見学
木曜	ウニのソーティング	ウニのソーティング
金曜	お休み	買い物
土曜	ルームメイトと観光	ルームメイトと観光
日曜	お休み	カフェ



図 1 乗船の様子



図 2 ルームメイトの誕生日パーティー



図 3 頂いたペンダント

# 餘目 早希

一関工業高等専門学校 システム創造工学専攻 1年

留学先： フランス ブレスト

留学期間： 2024年9月7日～10月11日（35日間）



## 1 留学テーマ

～次世代へ工学の魅力を伝えるために～フランスで学ぶ STEAM 教育

## 2 事前事後インターンシップでの取り組み内容及び成果

### 【事前インターンシップ】

#### ○PLOT

このインターンシップでは、子供たちとの交流や授業アシスタント業務を通じて、教育への理解を深めることを目指した。初日は授業前に子供たちと交流し、プログラミング教室の授業を見学した後、子供たちにインタビューを実施。インタビューでは、工学やプログラミングへの興味のきっかけや将来の夢、省エネルギー化への取り組み、フランスに関心があることなどを尋ねた。二日目以降は授業サポートを積極的に行い、児童の学習意欲や興味を引き出す方法を模索。特に、ゲーム制作に取り組む子供たちとの交流を通じて、創造力や問題解決力を伸ばす教育の重要性を実感した。また、PLOT の授業では少人数制の対話型授業が行われ、遊びを取り入れた形式が特徴的だった。プログラミングの先生からは「授業の第一の目的は楽しんでもらうこと」との意見や、地域格差への対応として「大人が世界を広げるために様々なものに触れさせること」が重要だと学んだ。このインターンシップを通じて、STEAM 教育を社会に浸透させるためには、子供たちの興味を引く内容や関心を明確にすることが大切だと実感した。



#### ○シミック CMO

シミック CMO 株式会社西根工場でのインターンシップでは、太陽光発電システムの導入や省エネルギー化活動に関するインタビューを通じて、企業における再生可能エネルギー導入の実質的な課題

を明確にすることができ、持続可能なエネルギー活用に向けた現場での取り組みについて深く学ぶことができた。また、省エネルギー化の実践的な取り組みを通じて、技術的な観点だけでなく、企業の戦略や経済的な側面からの課題も理解することができた。さらに、企業での女性活躍推進や働きやすい職場づくり、負担軽減対応の改善活動にも関心を持ち、多面的に物事を分析する力を養うことができた。これらの経験を通じて、技術的な課題解決に加え、企業経営や組織運営の視点からも考察を深める貴重な機会となった。



#### ○リニューアブルジャパン

リニューアブルジャパンでのインターンシップでは、オンライン会議で会社の概要や電気の基礎知識を学び、川崎発電所を見学して太陽光発電導入の課題を理解した。土地確保や土木工事、蓄電池設置、住民の反対など多くの課題があることを認識し、技術的な改善点も学んだ。また、企業内での男女比率や育休・産休制度の整備についても理解を深め、再生可能エネルギー業界の現状と企業の取り組みについて実務的な視点を得た。



#### ○長島製作所

事前インターンシップで長島製作所の前沢工場を訪問し、再生可能エネルギーを「利用する側」の視点から、4名の従業員にインタビューを行った。インタビューでは、再生可能エネルギー導入における課題や省エネルギー化活動について意見を伺い、特に産休や育休を取得する従業員が周囲に負担をかけない体制や、省エネルギー化に向けた委員会活動が印象に残った。導入においては、雪の多い地域でのシミュレーションが採算に合わず、敷地や設備劣化の問題も浮き彫りになった。一方で、工数削減が省エネルギー化に貢献することを学び、現場での課題解決に向けた視点を得ることができた。



## 【事後インターンシップ】

### ○PLOT

事後インターンシップでは、フランスでの留学経験を活かし、日本とフランスの教育の違いや現地での調査結果を子供たちや講師陣に共有することを目的として活動を行った。初日には、留学の成果報告としてパワーポイントを用いた発表を行い、講師の方々からコメントをいただいた。その後、小学生の英語の授業でフランスについてのプレゼンテーションを実施し、フランスの科学館や文化について紹介した。また、アンケート調査やインタビューを通して得た教育やエコ活動に関する情報を報告会で伝えることができたが、よりスムーズな発表を行うための改善点を見つける機会にもなった。

二日目は、2~4年生の児童に向けて20分程度のプレゼンテーションを行い、フランスの文化や自身の経験を紹介した。子供たちとの対話を交えながら発表を進めることで、彼らの興味をより引き出せたと感じた。特に、スライドを用いたクイズ形式の説明を取り入れたことで、海外経験のない子供たちにもフランスの様子を楽しく伝えることができた。また、授業以外の時間ではプログラミング教室のサポートを行い、子供たちの学習を支援した。

今回のインターンシップを通じて、単なる授業のサポートにとどまらず、異文化を伝える役割を果たすことができた。海外の教育や環境に関する知識を共有することで、子供たちに新たな視点を提供できたと考える。さらに、プログラミングの授業では、子供たちが安心して学習できるよう優しくアドバイスを行い、学習環境の整備にも貢献した。この経験を活かし、今後も教育支援の場で自身の学びを還元できるよう努めていきたい。



### ○シミック CMO

今回のインターンシップでは、フランス留学で得た視点をもとに、工場の職員の方々へ報告を行い、事前インターンシップで明らかになった課題の解決策を提案した。特に、東北地方の雪国特有の問題として、太陽光発電システムのメンテナンス負担や採算性の低さが指摘されていたため、その解決策として「垂直型太陽光パネル」の導入を提案した。このパネルは積雪による反射光を活用することで発電を可能にし、雪が積もることなく維持管理の負担を軽減できる点が利点である。この提案は参考になるとの評価を受け、工場での活用について前向きな意見をいただいた。また、フランス留学を通じて感じた環境問題への国民の意識の向け方や、子供が科学に積極的に触れられる教育環境の整備についても意見を



共有し、特に科学を楽しく学べる環境づくりの重要性について伝えることができた。成果報告の場では、フランスの科学館にあった模型を参考にした垂直型太陽光発電の提案を発表し、高い評価を得ることができた。企業側としても、社会や人々に対して何ができるのかを改めて考える良い機会になったとのコメントをいただき、自身にとっても実践的な視点を持つ重要性を再認識する機会となった。今後、この経験を活かし、より実践的なアプローチで研究や活動に取り組んでいきたい。

### 3 留学先での取り組み内容及び成果

本留学では、研究室で最先端の技術を学ぶと共に、フランスの研究者や学生、地域の人々と交流し、「STEAM 教育」や「省エネルギー化」についての考え方や取り組みを学び、国際的な感性を養うことを探求していた。本調査は、アンケート調査、インタビュー、科学館での体験を基に実施した。アンケート調査では、パリの科学館で出会った人々や友人に協力をお願いし、学校の掲示板に QR コードを貼って活動を行った。インタビューでは、パリで出会った人々やホストファミリーにフランスでの生活や教育について尋ねた。以下に調査結果についてまとめる。



#### ○科学教育の重要性

5段階評価での平均は4.31だった。教育について重要度の高い順に並べ替えるアンケートでは、外国語、工学、科学、数学、歴史、音楽、スポーツの順となった。外国語が最も高い順位に位置した理由として、フランスが多国籍の人々が集まる国であることが挙げられる。しかし、工学やサイエンス、数学も上位にランクインしており、フランスの産業に深く関わる教科の重要性が反映されていると考えられる。

- 好奇心をそそる教育：子供は興味が移りやすく、視覚的に魅力的なものを好むため、常に楽しさと熱意を高められる教育が重要。
- 実際の科学実験：実際に手で触れて学ぶことが記憶に残りやすく、子供の興味を引く効果的な方法。
- 対話型の教育：子供と向き合う姿勢を見せ、コミュニケーションをとることで、子供が真剣に取り組むようになる。

## ○エコ活動について

日常生活でのエコ活動への意識度調査では、5段階評価で3.88となった。具体的な活動として、エネルギー・フードの節約、ごみの分別、リサイクル、食洗器の利用、公共交通機関・カーシェアリングでの登校・通勤、洗濯の時間配慮などが挙げられた。フランスでは食洗器の利用が主流であり、これにより節水効果や洗剤による環境負荷軽減が実現されている。また、地産地消が推進されており、週に一度の買いだめを行う家庭が多い。街中では日本ほどトラックを見かけないことから、地産地消の取り組みが浸透していることがわかる。

フランスは国を挙げてエコ活動に注力しており、地域によってはエアコンの代わりにヒートポンプの利用が推奨されており、購入金額の半分は政府が補助する政策がある。また、3時間以内で行ける場所への飛行機運航を中止し、新幹線や電車の利用を推奨している。2035年以降、ガソリン車の販売中止が予定されており、ハイブリッドや電気自動車の販売が促進されているが、設備の導入には課題が残る。

活動場所として訪れた科学館や水族館では、日本とは異なる取り組みが見られた。例えば、ブレストの水族館では、トイレの色が茶色であり、これは水族館の必要な水の85%を屋上で集めた雨水で貯っているためであった。ブレストは雨が多い地域であり、この地域特有の取り組みが活かされている。また、水族館では、環境問題を考えさせる展示が数多くあり、海底を再現した展示にタバコやプラスチックの破片などが展示されていた。



## ○ジェンダーについて

日本よりは男女共同参画の観点で進んでいるが、現在も闘っている最中である。確実にジェンダーギャップは取り除かれつつあるが、まだ真の平等には到達していない。活動場所であったISEN工科大学は高専、大学の工学部と比べて、半々ではないが圧倒的に女性の割合が多かった。寮やトイレは男女分けないところも一般であり、同性婚が認められてレズビアン・ゲイなども受け入れられる環境が多い。バスに乗った際、運転手の半分弱程度が女性であり、日本との違いを感じた。

## 4 当プログラムに参加しての感想・協賛企業へのメッセージ

このたびは、本プログラムを通じて貴重な経験をさせていただき、誠にありがとうございました。自ら行動しなければならない環境に身を置いたことで、大きな自信を得ることができました。また、自身の取り組みが国内外で評価されたことにより、今後さらに活動を深めていきたいという思いが強まりました。加えて、自分のやりたいことに対して、想像以上に多くの方々がご協力くださったことに、深い感動を覚えました。初めて、自身で渡航チケットの手配から現地でのプランニングまでを行い、留学を実現した経験は、私にとって大きな成長の機会となりました。このような貴重な機会を提供し

てくださった協賛企業の皆様に、心より御礼申し上げます。

## 5 留学費用について

総額 50万円

プログラムによる支援 37万5千円

自己負担 12万5千円

### 【内訳】

- ・渡航費・移動費 : 25万円
- ・宿泊費（ホテル・ホームステイ） : 14万円
- ・食費 : 3万円
- ・eSIM : 8千円
- ・保険 : 1万2千円
- ・雑費 : 6万円

## 6 語学力について

留学後、TOEIC を何回か受けた結果、750点までスコアを伸ばすことができた。留学の最終日にはホストファミリーから、英語の発音や文法が信じられないくらい上達したと伝えられ、帰国後には高専にいる留学生にも発音がよくなつたと言われた。しかし、1ヶ月という短期間では成長に限界を感じ、配属された研究室には他の日本人留学生が2人いて、日本語も使える環境だったため、英語脳での生活ができず、少し残念に思った。

# 菅原 真波

一関工業高等専門学校 システム創造工学専攻 1年

留学先：フランス リール

留学期間：2025年3月2日～28日（27日間）



## 1 留学テーマ

岩手県の環境保全意識の強化と高齢化問題の対策

## 2 事前事後インターンシップでの取り組み内容及び成果

事前インターンシップ

取り組み内容

- ・スマート教室に帯同し、高齢者の方々へのヒアリングを行った。

成果

- ・高齢者が感じている日常的な課題についての理解が深まった。具体的には、移動手段の不便さ、医療・福祉の課題、経済的不安、デジタル技術への不安、子どもや孫との距離感等があった。

## 3 留学先での取り組み内容及び成果

取り組み内容

○研究活動 (DQMH を使ったストップウォッチシステムの作成、画像解析プログラムの改良)

- ・シンプルな DQMH を使っていないストップウォッチの作成
- ・スタート、ストップ、リセットイベントの構造の考案

○環境保全、公共交通機関についてのインタビュー活動

環境保全

- ・環境問題にどのくらい関心があるか、また、最も気になっている環境問題は？
- ・環境に配慮した行動を普段から行っているか
- ・”TOO GOOD TO GO”というアプリを知っているか、また、使ったことがあるか

公共交通機関

- ・普段使っている交通手段は何か
- ・相乗りタクシーのアプリについて知っているか、また、使ったことがあるか
- ・このアプリのメリット、デメリットは何か

- ・サービスの改善点や必要だと思う機能はあるか

## 成果

### ○研究活動

- ・研究活動で用いた、Labview、DQMH は高齢者向け相乗りタクシーシステムを創っていくうえで肝となるシステムで使用することはあまり向いていないが、例えば、タクシー車両にセンサーや IoT デバイスを搭載し、乗降状態や健康状態を監視することや、そのデータをリアルタイムで可視化するようなハードウェア側のシステムを構築するような機能を追加していく場面では活躍する可能性があるので、システム開発につながる良い経験となった。
- ・予約管理、通知、支払いなどの機能をそれぞれ分離することで将来的に機能を追加、変更しやすくしたほうがいい、音声案内は高齢者にとっても使いやすいと思うなどシステムを構築していくうえでのアドバイスや意見をもらうことができた。

### ○環境保全、公共交通機関についてのインタビュー活動

- ・フランス人の環境問題への関心度が日本の学生と比べて高いことが分かった。公共交通機関を使うことを環境に配慮しているという風にとらえているというインタビュー結果もある。そのため、高齢者向け相乗りタクシーサービスは、環境にも配慮でき、また、CO<sub>2</sub> 排出削減量の可視化などの工夫をすることで利用者にも環境への配慮を実感してもらうことができ、環境保全につながることに気づいた。さらに、環境への配慮結果の可視化は、相乗りタクシーだけではなく、日常生活の様々な場面で活用することができると思った。
- ・相乗りタクシーの利用シーンとして、長距離移動の場合が多いことが分かった。また、学生の利用者は予想よりも多かった。その要因の1つとして、知らない人とのかかわりに抵抗がないことなどの国民性の違いが考えられる。
- ・フードロスの対策アプリを使っている人は約80%で、その理由は安く食品を購入できると回答した人がほとんどだったが、その他の理由として、フードロス削減に貢献できる、環境問題に関心があることなどが挙げられた。このことからもフランス人の環境保全の意識の高さがうかがえ、その要因としては、フランスの環境保全教育が考えられる。普段何気なく行っていることがどのような効果を示すかの教育の強化が必要だと分かった。

## 4 当プログラムに参加しての感想・協賛企業へのメッセージ

本プログラムに参加して、目的、活動内容をより明確にし、活動することができたことで、留学経験がより内容の濃いものになった。また、留学に行く学生同士の交流は、違った観点からの意見、質問を受けることができ、活動内容のブラッシュアップにつながった。

このたびのフランス留学では、協賛企業の皆様のご支援を受け、大変貴重な経験を積むことができました。現地では、専門的な知識の習得や言語能力の向上はもちろん、異文化の中での生活を通して、柔軟性や適応力、多角的な視野を身につけることができたと感じております。困難な場面もありましたが、その一つひとつが成長につながったと実感しています。今後は、留学で培った知識や経験を活かし、岩手県に還元できるよう努力してまいります。本当にありがとうございました。

## 5 留学費用について

交通費（飛行機、新幹線、TGV、地下鉄等）：250,000円

必要出費（寮、保険、eSIM）：80,000円

食費：70,000円

雑費：30,000円

合計 430,000円

## 6 語学力について

留学前

英語 : 簡単な会話ができるレベル

フランス語 : ほとんどしゃべれないレベル

留学後

英語 : 日常的な会話ができるレベル

フランス語 : 簡単な挨拶などはできるレベル

英語に関しては、留学前に TOEIC の点数が 555 点から 725 点まで伸ばしたことである程度のボキャブラリーと自信につながったと感じている。留学中は、思っていたよりも英語での会話もできましたが、翻訳機を使ったこともたくさんだったので、今後も留学生との会話等を通して、英会話能力を鍛えていきたい。

フランス語に関しては、ほとんど勉強せずに留学に行ったが、留学中に現地の学生に教えてもらいながら、簡単な挨拶はできるようになった。

# 千田 翔太

一関工業高等専門学校 システム創造工学専攻 1年

留学先： フランス ブレスト

留学期間： 2024年9月9日～10月18日（40日間）



## 1 留学テーマ

「電気×AIで、SDGsと高齢化社会の孤独死問題に取り組む」

- ・高齢者見守りと電力量監視を行うアプリケーションで、孤独死問題とSDGsに取り組む。
- ・構想中アプリの中核となるAI技術について学ぶため、フランスのブレストへ留学を計画。

### 【実施計画】

- ・研究に使うコンピュータのスペック・投入台数の規模感を把握する。
- ・コンピュータ周りの、サイバーセキュリティや、学内ネットワーク管理の実態を知る。
- ・教育に関して、AIに関する授業は、高専の授業形態と比べてどのようなか調べる。
- ・データは既存のものを使うのか、それともIoT等を利用して自ら採集しているのかを知る。
- ・ISENと共同研究を行う企業や研究機関を調べ、フランスの産学官の連携体制を知る。

## 2 事前事後インターンシップでの取り組み内容及び成果

### 【事前インターンシップ】

磐井AI株式会社

#### ●取り組み内容

- ①アプリケーションのUI制作
- ②起業・データ集め・使用技術等の情報共有
- ③リサーチプレゼンテーション

#### ●成果

- ・起業において行うことの一部について知ることができた
- ・AI開発に必要なデータや被験者の集め方について知ることができた
- ・AIモデル開発のやり方、使用技術について学ぶことができた
- ・地域社会におけるAI導入メリットについて調査した

## 【事後インターンシップ】

### 磐井 AI 株式会社

#### ●取り組み内容

- ①実際のアプリ機能となる AI モデルとしてのデータ解析
- ②企業イベントへの参加

#### ●成果

- ・試したことのない新たなデータ解析手法について知ることができた
- ・データの操作や必要なデータの抽出方法について実践して身につけることができた
- ・福祉業界での IoT や AI によるビジネスのアイデアを多く知ることができた

## 3 留学先での取り組み内容及び成果

#### ●取り組み内容

- ①小型ドローンのセットアップと飛行試験
- ②海外学生との交流
- ③最新の AI モデルの論文調査

#### ●成果

- ・ドローン制御の知識と仮想マシンについて学ぶことができた
- ・モジュール制作に欠かせない 3D プリントの経験を得ることができた
- ・留学生の進学事情や、現地での就職・インターンシップ情勢について知ることができた
- ・最新の AI モデル(気象・時系列系)の研究について知ることができた

## 4 当プログラムに参加しての感想・協賛企業へのメッセージ

初めに、この度本留学へのご支援をいただきました協賛企業の皆様に、深く感謝申し上げます。

本当に学ぶことの多い留学・インターンシップを行うことができました。技術的な面では、新しいものに触れることが多く、さらに、手を動かすことも多かったため、知識と経験を十分に得ることができました。留学先が臨海だったという事もあり、ドローンによる海洋ごみ回収の研究を行っている研究室で大半の活動を行いました。ほかにも IoT や AI にかかる研究はみられましたが、海洋ごみ回収ドローンをはじめ、一関高専ではみられない AI や IoT 技術の利活用研究を見て、自分の中のアイデアの引き出しを増やすことができたと思います。ほかにも、他の国からの留学生や ISEN 学生との交流を通して、いろいろなキャリアのあり方を学び、ライフプランという面でも視野が広がるような経験になりました。ISEN ブレスト校の研究体制として面白かった点は、異なる分野の少数の研究者で研究室が構成されていることでした。また、主に AI の学習で使用される学内コンピュータを見学しました。

事前インターンシップでは、アプリの UI 制作を経験し、さらに、AI スタートアップ企業の活動情

勢について学びました。事後インターンシップでは、留学で学んだ AI の知識を、データ解析を通して、昇華することができました。留学で得た知識を生かすことができたこの過程が、特に印象に残っています。

将来は、本プロジェクトでの経験を、電力見守り高齢者見守りシステムまたは他の AI 活用サービスという形で岩手に還元することができるよう努めています。改めまして、本留学にご支援賜り、誠にありがとうございました。

## 5 留学費用について

今回の留学では、渡航費として 20 万円、インターン日給として 1 日 5,000 円 × 40 日間で 20 万円の支援をいただいた。実際に今回の留学でかかった費用の内訳は、渡航費:約 18 万 7000 円、宿泊費:約 9 万円、SIM 代:約 1 万 2 千円、保険:約 2 万円、その他、食費、交通費含めて約 10 万円となり、総額は約 45 万円だった。また、そのうち、自費は 5 万円程度であった。日本よりも食べ物の価格が高く、食事や移動はなるべく浪費を抑えるように注意していた。ただ、保険にもよるが、風邪等体調不良になると治療費がかかり、インターン活動もできなくなるため、最低限の栄養を取れるように食事には気を使っていた。また、洗濯、食事は、ホームステイ先が提供してくれる場合とそうでない場合があるが、今回の場合は朝食と夕食を提供していただいた。もし、すべての食事を自己負担すると考えると、体の健康面を踏まえて、今回の留学費用では足らないこともありうると感じた。

## 6 語学力について

知っている英単語が増えたというようなことが大きい部分ではなく、すでに知っていた単語や文法がすぐに口に出るようになったことが本留学を通しての主な成果でした。初めは言葉が止まることが多かったですが、簡単な意思疎通ならこなせる程に成長しました。また学内では英語でコミュニケーションをとることが多かったですが、街などの学外では英語が話せる人が多くはなかったため、フランス語の授業を研究と並行して受けました。フランス語に触れることで、現地の人たちの感覚を知れたという事も大きな成果でした。

# 阿部 佑沙

岩手大学 農学部植物生命科学科 3年

留学先： アイスランド レイキャビク

留学期間： 2024年9月2日～16日（15日間）



## 1 留学テーマ

アイスランドからみる岩手の農業

～地熱を活用して農耕活性化を図る～

## 2 事前事後インターンシップでの取り組み内容及び成果

### 【事前インターンシップ】

- ・葛巻町役場
- ・葛巻町江刈馬渓自治会
- ・NPO 法人 SET 運営「いわてユースセンターミライト」

#### ①取り組み内容

- ・地元酪農家・農家との交流
- ・役場副会長・いらっしゃい葛巻推進課の職員と会談
- ・葛巻の現状を把握するために町内フィールドワークでインタビューや地元企業の訪問をおこなった。
- ・NPO 法人 SET と葛巻町役場のいらっしゃい葛巻推進室が共同で実施する、11月の地域創生に繋がる企画実施に向けた企画書作成

#### ②成果

- ・副町長との会議では、「葛巻町の再生可能エネルギーの取り組み」が主な話題となり、地熱発電を農牧業に取り入れられないか提案をするなど、留学目的を交えた話し合いを行った。
- ・実際に農牧業に携わる人と交流することで課題や現実（重労働・肥料のコストがかかりすぎるなど）を具体的に知ることができた。
- ・町内での横と縦の繋がり（町の人や地元の学生：横のつながり、町役場や地元企業：縦のつながり）を築き、人脈を広げることで留学後のインターンで円滑な活動ができるようにした。  
(インターン中、役場・自治会・町民・NPO 法人合同で懇親会を開き、自身の留学計画に関して多くの人から助言・認知して頂いた。幹事を務めることでより認知していただくことができ、名刺交換や情報共有を通して協力が得られやすいような状況をつくることができた。)

### 【事後インターンシップ】

- ・葛巻町江刈馬渓自治会  
(NPO 法人 SET・葛巻町よつば会)

#### ①取り組み内容

- ・酪農家の仕事体験
- ・葛巻町よつば会より、葛巻町での女性起業に関して発足や取り組みに関して伺った
- ・地域活性化に繋がる企画実施（コロナ渦でなくなった祭りを復活する）

#### ②成果

- ・地域活性化に繋がる企画を葛巻町江刈馬渓地区で実施した。資金面で留学後の達成目標（留学計画での目標であった、地熱を活用した温室栽培を実現化する）とは異なる企画を実施せざるを得なかつたが、留学成果（詳細は 3 を参照）を現地の酪農業や町役場の人に話すことで、地熱発電を活用する情報共有をした。また、昨年度から葛巻町では地熱発電の導入を始めたため、初年度であった。地熱発電の農牧業での活用アイディアに対して、模索していた段階ということもあり、副町長や町の人から興味をもっていただき、会議での検討や今後の活用方法の施策として考えてくださるとの話をいただいた。

## 3 留学先での取り組み内容及び成果

#### ①取り組み内容

- ・地熱を活用した温室で野菜の収穫・播種
- ・ハーブティー作り
- ・温室の管理（除草・支柱など）
- ・カフェテリアへの野菜の運搬
- ・アイスランドの農業に関してキャンプリーダーからレクチャーを受ける

#### ②成果

#### 調査内容とその結果

- ・温室で収穫された野菜の販路：収穫物は施設と連携している野菜ビュッフェレストランに運ばれる。市場に出荷されることはない。収穫された新鮮な野菜は調理され、健康施設内のカフェテリアで提供される。(高齢者がメインに利用する施設) カフェテリアでは毎日 15 種類以上の野菜料理が提供され、魚や肉料理は提供されていなかった。物足りなさを感じるかと予測していたが、試食した際に野菜料理のみでも高い満足度を感じられることがわかった。このことから、ビーガンやベジタリアンの人々

が野菜飲みの食生活で満足できる気持ちが理解できた。

- ・温室栽培の特徴について

- i) ハウス内の設備

温室は約 25°C に保たれる。二酸化炭素濃度を調節する装置が設置されている。これは、二酸化炭素濃度を高くすることで作物の光合成量を増やし、成長を促進させるためである。また、天気により内部が高温になった場合は、自動で屋根が開き、外部の冷気が入るようにしている。外での栽培と比べて収穫量が多く、2 日に 1 回収穫で、トマトは 1 温室から通常サイズのバケツ 6 杯分が収穫できた。温室は栽培効率が良いことが分かった。

- ii) オーガニック野菜を栽培

外部から遮断されているため害虫の被害が少ないとから無農薬で栽培していた。しかし、ナメクジがハウス内に入り込み、特定の野菜（ニンジンの葉の部分、根は無傷）を食べていた。害虫は侵入するが野菜の可食部への被害はないように思えた。

- ・温室で栽培される野菜の種類

トマト（クローラー・ディ・ブレ、チェリートマト、大玉トマト）、バジル、ニンジン、レタス、パプリカ、キュウリ、ハーブ、ズッキーニ、パセリなど

- ・温室栽培作物に対する消費者ニーズ

アイスランド含むヨーロッパは全体的にベジタリアンやビーガンが多く、野菜中心の生活をしている人が多く、野菜を積極的に摂取する人が多かった。そのため、オーガニック野菜は肥料を使用するため、アイスランドの消費者ニーズに合っているといえる。そして、動物愛護や環境配慮に対する活動や理解が日本より進んでいるため、これもニーズに合っている要素であると考える。また、温室栽培により年中野菜を栽培できるため、アイスランドという寒さの厳しい土地（夏は平均 12~15°C、冬は 0°C で土壌の栄養も乏しく、野菜が成長しにくい環境である）でも常に新鮮な野菜を食べることができることも利点であるといえる。

- ・地熱活用の利点

留学先は、「ナチュラルヘルスアソシエーション」という主に高齢者向けの宿舎で、ここでは地熱を利用した温室プール・暖房設備・温室栽培を実施していた。温室以外の活用例もあり、利用法も様々あることが利点である。（特に火山が存在する寒冷地においては地熱活用は合理的であると考える）

#### 4 当プログラムに参加しての感想・協賛企業へのメッセージ

協賛者の皆様へ、ご支援に対して心より感謝申し上げます。日本は利用可能な再生可能エネルギーが多くあるにも関わらず、それを上手く活用できていないことが課題だと感じていました。今回、地熱活用に焦点を当て、岩手県で活かすことができないかとインターンと留学で奮闘した経験は、岩手県の農業と自身の成長に繋がるきっかけになったのではないかと感じています。今回のプロジェクトに

より、インターン先の副町長直々に名刺をいただき、今後もこのような意見を沢山出してほしい、などお褒めの言葉をいただきました。そして、自身の案を実現化するために葛巻町役場や岩手県内で就職することも視野に入れるようになりました。留学を通して自身の将来と岩手県の農業の将来を考え、未来を思い描くことができたことが、成果の1つでもあると思います。改めて、このような機会を与えて下さり、本当にありがとうございました。

## 5 留学費用について

①総費用：44万7,650円

内訳：渡航費 22万2,650円・宿舎費 6万8,000円・食費 1万円・ビザ、保険料 2万7,000円・仲介料 3万円・ホテル代 4万円・国内移動費 2万円・その他お土産代など 3万円

②費用負担

留学奨学金：27万5,000円

自己負担：17万2,650円

## 6 語学力について

渡航前は、英検準一級（TOEIC740~840相当）で、話すことが苦手だったが、渡航後は、日常会話レベルを話せるようになった。留学後も英語の勉強を続けており、自身の専門に関わる（生物や農業、医療など）ニュース内容を聞きとり理解できるようになった。留学後間もなくバイト先にスイスからの観光客が訪れ、英語で色々質問されたが、難なく対応できるまで成長でき、自身でも成長を実感している。現在は英検一級、TOEIC850点以上を目指し、勉強している。

# 筒井 咲月

岩手大学 農学部森林科学科 3年

留学先：ドイツ ラインラント＝プファルツ州

留学期間：2024年9月16日～30日（14日間）



## 1 留学テーマ

岩手の森林環境のポテンシャルを最大限に引き出す！

## 2 事前事後インターンシップでの取り組み内容及び成果

【事前インターンシップ】NPO 法人遠野エコネット

NPO 法人遠野エコネットは「遠野森のがっこう」という名称で環境教育活動を行っている非営利団体である。事前インターンシップでは環境教育活動の一環として、小中学生を対象とした森の中でのキャンプにスタッフとして参加した。キャンプの運営や、子供たちが自然に触れ、自ら考えて活動することのサポートを行った。岩手県において子供たちがどの程度森林を感じているかを、一緒に活動することで調査できた。

最終日にはアンケートも実施した。回答は、岩手には森林が多いという認識があり、森林は大切である、将来何らかの形でかかわりたいという意見が多かった。森林の木を伐採することは総じて悪いことだと考えている回答が大半だったので、森林利用についての正しい認識をもっと広める必要があると感じた。

【事後インターンシップ】NPO 法人遠野エコネット

環境教育活動の一環として、森の中でのキャンプにスタッフとして参加した。事前インターンシップと異なり大人も参加可能で、参加者に森林への意識について聞くこともできた。

活動を通してスタッフや参加者とドイツの森林と日本の森林の違いについて話し、スタッフとは今後の環境教育活動の改善点や方法について話し合うことができた。

## 3 留学先での取り組み内容及び成果

9/16～22 森林研修 (Rheinland-Pfalz)

ロッテンブルグ林業大学が主催する1週間の森林研修プログラムに参加した。目的は、森林管理を行う立場から専門的な話を聞くことである。ドイツの森林には州ごとにフォレスターがいて、森林管理を一任されている。

今回のプログラムでは、ドイツ南西部のラインラント＝プファルツ州の森林を複数か所実際に訪問し、フォレスターはじめ現場の方の話を聞いた。

ドイツでは現在、気候変動が大きなテーマの一つで、ここ数年乾燥によって森林は大きな被害を受けており、森林の減少に歯止めをかけることが課題になっていた。ただし、森林面積をただ増やすことだけが重要なのではなく、この森林被害をきっかけに生態的、防災的に望ましくない単一樹種の森林から針葉樹や広葉樹の混交林に移行することが目標になっていた。

また、人間が手を入れない状態で生態系を自然に変化するままに管理している森林も多くみられ、例えば倒木が放置されているのは倒木を住みかとする生物もいるからだということだった。そして、ドイツの森は基本的にだれでも自由に入ることができるので、この自然な変化を一般の人も自由にみられるようになっていた。

#### 9/24~30 ファームステイ (Hütschenhausen)

WWOOFing Germany というシステムを用いて、ドイツ南西部のヒュッセンハウゼンにある Baumschule Ritthaler という植物園に 1 週間ファームステイをした。ここでは種や苗木の販売のほか出張先での樹木の剪定を行っており、職員も 10 名以上いて、木について教えてもらいながら植物園の業務を手伝った。目的は、森林の豊かな地域に暮らす人々が森林とどのようにかかわっているのか調査することである。

滞在したのは森に囲まれた小さな町で、森は遠野と同様身近に感じた。ファームステイ先では休日には森に行ってその静けさに癒されたり、ただ歩くだけの時間を楽しむこともあると聞き、森の利用の仕方が日本とは大きく異なることに驚いた。実際に、休日は同じ職場の人の家族と交流して皆で森に散歩に行ったり、ホストマザーと軽いハイキングに出かけたりした。

森を歩いているときはマウンテンバイクや写真撮影をはじめ様々なアクティビティを楽しんでいる人を多く見かけ、それ違うときは挨拶を交わした。日本に比べて森に行くことはハードルが低く、広い世代が楽しめるレクリエーションの一つであるという印象を受けた。

#### 4 当プログラムに参加しての感想・協賛企業へのメッセージ

私がドイツで森林について学びたいと思ったのは、去年の夏にドイツのロッテンブルグ林業大学からの留学生と交流して、ドイツの森林に興味を持ったことがきっかけです。当時は実際に行けるとは思っていませんでしたが、その後いわてグローカルの奨学金制度について知り、最終的に今回の留学を実現することができました。

留学を通し、岩手にはない森林環境や人々の森林への意識、かかり方について学ぶことが多くありました。また、自ら積極的に現地の人と交流したことで日本ではできない経験ができました。

この留学を今後の糧とし、ドイツの森林で学んだことを活かして岩手の森林を有効かつ持続可能に利用する方法を探っていきたいと思います。本当にありがとうございました。

## 5 留学費用について

いわてグローカル奨学金：275,000 円

留学費用：約 450,000 円

(内訳)

渡航費：253,000 円

eSIM : 7,700 円

研修旅行費：185,000 円

WWOOFing Germany 登録：5,143 円

自己負担：約 176,000 円（その他：約 120,000 円）

## 6 語学力について

今回の留学では、主に英語、ドイツ語を使用した。留学前、英語は TOEIC リーディング&リスニングテストは 575 点、英検 2 級を持っており、日常会話ができる程度だった。ドイツ語は大学 1 年次に第 2 外国語で選択して勉強し、今回の留学が決まってから半年くらい復習を兼ねて独学で最低限のコミュニケーションはとれる程度にした。前半の森林研修では日本の学生が主な参加者であったため外国語が必須になる場面はあまりなかったが、後半のファームステイでは英語 8 割、ドイツ語 2 割程度で使用した。ドイツは母国語がドイツ語であるため、私が滞在したような農村部ではドイツ語しか話せない人もいる。ドイツ語でコミュニケーションを取ろうと試みたときに相手がとても喜んでくれたことが印象に残っており、現地の言葉を学習しておくことの重要性を実感した。また、英語を話すときもネイティブではないためゆっくり話す人が多く、コミュニケーションは取りやすかったように感じる。留学を通し、言語の異なる人との交流では、語学力の高さより積極的にコミュニケーションを取ろうとする姿勢が最も重要なと改めて感じた。

# 西村 有紗

盛岡大学 文学部英語文化学科 3年

留学先：カナダ ビクトリア市

アメリカ ワシントン州オリンピア

留学期間：2025年2月16日～3月16日（29日間）



## 1 留学テーマ

地域に携わる日本語教師への第一歩

## 2 事前事後インターンシップでの取り組み内容及び成果

### 【事前インターンシップ先】

インターンシップ先①：TVA 日本語教室

<活動内容>

- ・日本語の勉強のサポート

TVA 日本語教室では日本語教育だけでなく支援の部分を見つけることを目標としてインターンシップに取り組みました。TVA 日本語教室ではグループラインで頻繁にイベント情報などが提供されており、BBQなどのイベントも企画していました。心の繋がりや居場所としての役割が果たされないと感じましたが、言語教育の面では毎回先生が変わることで自己紹介からスタートしなければいけない事や日本語教育についての専門的な知識を持っている人が少ないため、日常会話で終わってしまうこと、若いサポートが少ないことが課題だと感じました。

インターンシップ先②：上野法律ビジネス専門学校

<活動内容>

- ・授業見学（聴解・漢字）
- ・教案作成
- ・授業（漢字・みんなの日本語第43課）

上野法律ビジネス専門学校では直接法の教え方について学びました。授業の見学や進路指導のサポート、実際に漢字の授業も行いました。漢字を分解してペーツに分けることで、学習者に分かりやすく覚えやすくする工夫や優先順位を考えて書ければいい漢字と読めればいい漢字などを分けて効率的に教えるというのが大変参考になりました。

### 【事後インターンシップ】

インターンシップ先：上野法律ビジネス専門学校

<活動内容>

- ・TRY の授業
- ・進路指導見学
- ・授業見学（漢字と聴解）
- ・みんなの日本語第 39 課授業
- ・漢字と聴解の授業
- ・交流授業参加
- ・小テスト採点

これまで、事前インターンシップやボランティア活動、仙台国際日本語学校での教育実習などを通して、日本語教育の現場を少しづつ経験してきました。その中で、学校やクラスの違い、さらには天候などの環境の変化によって、同じ授業内容でも進めやすさや雰囲気が大きく異なることを実感しました。この経験から、授業は常に「相手と状況に応じて変化させる柔軟さ」が大切だということを学びました。

## 3 留学先での取り組み内容及び成果

### 【留学活動】

留学先：カモーソン大学（カナダ）移民定住支援サービスプロバイダー（カナダ）

サウスピュージェットサウンドコミュニティカレッジ（アメリカ）

留学期間：2月16日～3月16日

#### ① カモーソン大学（カナダ）

<主な活動内容>

- ・英語の授業

英語の授業では、「英語しか話してはいけない」というルールがあり、授業中はすべて英語で話す必要がありました。初めは自分の言いたいことがうまく出てこず、グループワークでも苦労しましたが、学校では「間違いを恐れずに話す」ことを意識していたため、次第に自信がつき、ホストファミリーとのコミュニケーションにも積極的になれました。その結果、楽しく充実した 2 週間を過ごすことができました。

自分が言語学習者の立場になってみたことで、「伝えたい気持ち」や「伝わったときの喜び」など、学習者の気持ちに深く共感できるようになりました。

## ② ICA 移民定住支援サービスプロバイダー（カナダ）

<活動内容>

- ・施設見学
- ・インタビュー調査

ICA へ行き施設説明や仕事内容、移民支援について教えていただきました。カナダでは、国からの支援金で活動が行われており、移民への英語教育は雇われたスタッフが指導していました。ボランティアはテストや練習を手伝う会話相手としての役割を担っていました。1 クラス当たり約 20 人ですが、ICA では約 500 人の学習者を抱えていると教えていただきました。

また、どんな工夫をして言語を教えているのかを質問したところ、良い教師は「これがなぜ重要か」を理解させるとおっしゃっていて自分もゴールが明確でゴールを達成することでなにが得られるのかどんな場面で使えるのか、そういったことをきちんと伝える授業をしたいと思いました。ICA では英語指導だけでなく子育て支援や住宅、仕事の資金援助など幅広く活動しており、移民支援について学ぶことができました。

## ③ サウスピュージェットサウンドコミュニティカレッジ（アメリカ）

活動内容

- ・授業見学
- ・チューター
- ・友達クラブの活動に参加

アメリカの大学で日本語の授業を見学し、日本語クラブの活動に参加、学生との交流を通じて、さまざまな学びがありました。授業では英語を使って文法を教え、学生が問題を解きながら学ぶ形式で進められていました。アニメのキャラクターを使った問題などもあり、学生の興味や意欲を引き出す工夫がされていて、とても印象的でした。

また、友達クラブでは、日本に興味がある学生たちが仲良く習字や気配切りなどのアクティビティをしていました。日本語や文化について話す中で、自分の文化を言葉で説明することの難しさと大きさを学びました。

## 4 当プログラムに参加しての感想・協賛企業へのメッセージ

私は当プログラムに参加したことで、日本語教師という仕事、移民支援、間接法と直接法の教え方について理解を深めることができました。計画実行にあたり、文化の違い言語の壁にぶつかったりもしましたが、そんな時、現地の方や盛岡大学に留学に来ていた友人たちが助けてくれました。改めて人との繋がりや思いやりの大切さを感じ、日本語教師として学習者に寄り添える日本語教師にな

りたいと思いました。支援してくださった企業・団体の皆様大変ありがとうございました。

## 5 留学費用について

交通費（飛行機、新幹線）：343,010 円

<内訳>

渡航費（航空券）：314,290 円

日本での交通費（新幹線）：28,720 円

現地出費（保険、通信費等）：374,811 円

<内訳>

ホームステイ：57,311 円（アメリカ）

カモーソン大学英語研修費（受講料・野外活動費・ホームステイ代 3 食付き）：275,650 円

保険：6,740 円

通信費 23,110 円

雑費：12,000 円

盛岡大学後援会助成金により -42,000 円

合計：675,821 円（自己負担 196,921 円 + お土産代や娯楽費）

奨学金（日額×支給日数）：145,000 円

往復渡航費：200,000 円

授業料：133,900 円

支給額合計：478,900 円

## 6 語学力について

はじめは英語が頭に入ってこず、空港で話しかけられても自分が話しかけられていることに気がつかなかったりしましたが、一週間くらいで英語が頭に入ってくるようになりました。ホストファミリーとの会話はすべて英語で行い授業もすべて英語でした。使えそうな語彙や単語はすぐにスマホにメモを取り、後からノートに書き写すことで覚えられるように努力しました。到着時よりも使える語彙や聞き取れる単語が多くなったことを実感しています。

**当協議会における海外留学派遣支援実績**  
**(平成 29 年度～令和 6 年度)**

| **概況**

支援スキーム	文部科学省 トビタテ！留学JAPAN				協議会独自				
派遣年度	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	計
応募者数 (人)	8	7	9	8	—	6	5	8	51
支援者数 (人)	7	5	8	新型コロナウイルスの感染拡大のため派遣中止		3	3	7	33
奨学金等 支給額 (千円)	4,816	2,774	7,142		1,203	1,451	2,642*	20,028	
内 訳	国交付金 (千円)	3,064	1,664	3,997		—	—	—	8,725
	協議会 (千円)	1,752	1,110	3,145		1,203	1,451	2,642*	11,303

※事後インターンシップの実施状況によっては金額が変更となる可能性あり

**2 支援内容**

(派遣学生所属先、概要 [①海外研修テーマ、②海外研修期間と研修国、③事前事後インターンシップ先])

平成 29 年度 (支援者 7 名) 《トビタテ！第 7 期生》		
1	岩手大学 教育学部	① カナダの駅舎から受けるインスピレーションを活用した魅力的な「玄関」としての駅舎構築による、列車を利用したいわて観光の浸透《コース C》 ② 1か月／カナダ ③ 事前事後) IGR いわて銀河鉄道(株)、(株)サラダファーム
2	岩手大学 農学部	① 世界へ羽ばたけ！ Japanese SAKE 南部美人《コース A》 ② 2か月／アメリカ ③ 事前事後) (株)南部美人、酒米農家、事前のみ) Sake Discoveries, LLC
3	岩手大学 人文社会科学部	① 「岩手発」で再生可能エネルギーの浸透を－欧州の先行事例に学ぶ－《コース D》 ② 5か月／ドイツ・スイス ③ 事前) 岩手県中小企業家同友会 事後) サステナジー(株)岩手営業所
4	岩手大学 農学部	① ロハス的な理想郷を目指して 地域と考える、豊かなまちづくり《コース D》 ② 2か月／イギリス、ドイツ、スイス ③ 事前事後) 岩手県中小企業家同友会
5	岩手大学 人文社会科学部	① 世界の被災地から学ぶ多文化社会《コース D》 ② 1か月／インドネシア ③ 事前) 岩手県総合防災室、遠野まごころネット 事後) 遠野まごころネット
6	岩手県立大学 盛岡短期大学部	① “被災地いわて” から “観光の街いわて” へ！私たちが住みたくなる街は、私たちの手で作る。《コース C》 ② 6か月／台湾 ③ 事前) (株)岩手ホテルアンドリゾート 事後) 北上観光コンベンション協会

7	一関工業高等 専門学校	① バイオマス分解因子と基質の相互作用観察（等温滴定型熱量測定）《コース D》 ② 1か月／ノルウェー ③ 事前) (公財)岩手県南技術研究センター 事後) 岩手県農業研究センター
平成 30 年度（支援者 5 名）《トビタテ！第 9 期生》		
1	一関工業高等 専門学校	① タイでの多様なコメ食文化を通じて岩手の米の消費拡大を考える ～米麺の可能性・三大麺から四大麺へ～《コース C》 ② 1か月／タイ ③ 事前) (公財) 岩手県南技術研究センター 事後) 岩手県農業研究センター
2	岩手大学 農学部	① リンゴで橋を。岩手からベトナムへ《コース A》 ② 5か月／ベトナム ③ 事前) (株)柳家・白金運輸(株) 事後) (株)柳家
3	岩手大学 人文社会科学部	① I DESIGN いわての木製雑貨で起業！《コース A》 ② 3か月／イギリス、フィンランド ③ 事前事後) 岩泉純木家具(有)
4	岩手大学 農学部	① かもめの玉子の力で岩手の魅力を世界へ発信！《コース A》 ② 2か月／台湾 ③ 事前事後) さいとう製菓(株)
5	岩手医科大学 医学部	① ハンガリー ペーチ大学での短期留学《コース E》 ② 1か月／ハンガリー ③ 事前事後) 岩手県医師会
令和元年度（支援者 8 名）《トビタテ！第 11 期生》		
1	岩手医科大学 医学部	① ハンガリー ペーチ大学にて医療を学ぶ《コース D》 ② 1か月／ハンガリー ③ 事前事後) 県内医療機関
2	一関工業高等 専門学校	① RMIT(Royal Melboune Institute of Technology) 大学で行う、漫然運転防止のためのウェアラブル型デバイスの開発《コース B》 ② 3か月／オーストラリア ③ 事前事後) (公財) 岩手県南技術研究センター
3	岩手大学 人文社会科学部	① 大船渡市の活性化を目指す観光のエキスパートへの第 1 歩プロジェクト《コース C》 ② 2か月／アメリカ ③ 事前事後) 大船渡市商工港湾観光推進室、JF 綾織漁業協同組合
4	岩手大学 教育学部	① 児童文学を生かした観光《コース C》 ② 2か月／カナダ ③ 事前) 花巻市生涯学習部賢治まちづくり課、花巻観光協会 事後) 花巻市生涯学習部賢治まちづくり課
5	岩手大学 教育学部	① 表情豊かな自然で伝えるいわて観光の魅力《コース C》 ② 5か月／カナダ ③ 事前事後) 盛岡市市民文化部文化国際課、岩手県商工労働観光部観光課、IGR いわて銀河鉄道

6	岩手大学 理工学部	① 自然が豊かな岩手県における、木質バイオマス資源の利用による循環型社会の実現を スウェーデンから学ぶ《コース D》 ② 5か月／スウェーデン ③ 事前事後) 紫波グリーンエネルギー(株)
7	岩手大学 教育学部	① 地域に根差した ICT 教育～児童の未来を支え、教員に負担の少ない社会を創る《コ ース E》 ② 5か月／オーストラリア ③ 事前事後) 県内小学校、岩手県立総合教育センター、IGR いわて銀河鉄道他
8	岩手大学 教育学部	① インクルーシブ教育の充実に向けて《コース E》 ② 6か月／オーストラリア ③ 事前事後) 県内小中学校
令和 2 年度		
新型コロナウイルス症の感染拡大のため、応募学生の採用を見送った。		
令和 3 年度		
新型コロナウイルス症の感染拡大のため、海外留学派遣募集を中止した。		
令和 4 年度		
1	岩手大学 農学部 共同獣医学科	① 岩手県の家族経営型酪農家の魅力を広げる《コース E》 ② 38 日間／フランス ③ 事前) 湯田牛乳公社、中洞牧場、小岩井農場、伊藤農場 事後) 温泉ジェラート、三谷牧場
2	岩手大学 農学部 共同獣医学科	① スイスのヒツジ・ヤギ飼育とその活用を学ぶ《コース E》 ② 43 日間／スイス ③ 事前) 下大桑ヒツジ飼育者の会、しあわせ牧場、中村工房、ムンフバットさんの羊牧場 事後) 下大桑ヒツジ飼育者の会、しあわせ牧場、ムンフバットさんの羊牧場
3	一関工業高等 専門学校 未来創造学科	① タイ・バンコクにおける岩手の食・文化・観光の魅力の発信と調査《コース A》 ② 20 日間／タイ ③ 事前事後) (公財) 岩手県南技術研究センター
令和 5 年度		
1	岩手県立大学 総合政策学部 総合政策学科	① 岩手アンバサダーを育成するための土台作り《コース E》 ② 39 日間／カナダ ③ 事前事後) (株)TS(個別教室のトライ盛岡南校)、盛岡ミッションえいご塾
2	一関工業高等 専門学校 未来創造学科	① 環境大国フランスに学ぶ環境保全方法とその実践活動《コース D》 ② 41 日間／フランス ③ 事前) (公財) 岩手県南技術研究センター、Next Iwate、(株)TOLIM 事後) (公財) 岩手県南技術研究センター、Next Iwate
3	盛岡大学 文学部 英語文化学科	① 県産品を世界へ！《コース E》 ② 26 日間／カナダ・アメリカ ③ 事前) 岩手日報社、みちのくコカ・コーラボトリング(株)、紫波サイダリー(同) 事後) みちのくコカ・コーラボトリング(株)、紫波サイダリー(同)

令和6年度		
1	岩手県立大学 ソフトウェア情報学部 ソフトウェア情報学科	① 磯焼け、藻場再生に関する調査及び普及活動《コース D》 ② 26日間／オーストラリア ③ 事前事後) 大槌町藻場再生協議会
2	一関工業高等 専門学校 未来創造学科	① ~次世代へ工学の魅力を伝えるために~フランスで学ぶ STEAM 教育《コース D》 ② 35日間／フランス ③ 事前) リニューアブルジャパン(株)、PLOT、シミック CMO(株)西根工場、 (株)長島製作所 前沢工場 事後) シミック CMO(株)西根工場、PLOT
3	一関工業高等 専門学校 未来創造学科	① 岩手県の環境保全意識の強化と高齢化問題の対策《コース D》 ② 27日間／フランス ③ 事前事後) Next Iwate
4	一関工業高等 専門学校 未来創造学科	① 電気×AIで、SDGsと高齢化社会の孤独死問題に取り組む《コース D》 ② 40日間／フランス ③ 事前事後) 磐井 AI(株)
5	岩手大学 農学部 植物生命科学科	① アイスランドから見る岩手の農業～地熱を活用して岩手の農耕活性化を図る～《コース D》 ② 15日間／アイスランド ③ 事前) NPO 法人 SET(葛巻町役場くずま～る、江戸馬淵自治会、いわてユースセンターミライト) 事後) NPO 法人 SET(江戸馬淵自治会)
6	岩手大学 農学部 森林科学科	① 岩手の森林環境のポテンシャルを最大限に引き出す！《コース E》 ② 15日間／ドイツ ③ 事前事後) NPO 法人遠野エコネット
7	盛岡大学 文学部 英語文化学科	① 地域に携わる日本語教師への第一歩《コース E》 ② 29日間／カナダ・アメリカ ③ 事前事後) TVA 日本語教室、上野法律ビジネス専門学校

## 令和6年度 いわてグローカル人材育成推進協議会 年間取組状況

	実施内容	
4月	4月5日(金)、12日(金)、15日(月)	令和6年度派遣募集説明会
5月	5月15日(水)	応募申請受付締切
	5月16日(木)～22日(水)	要件審査
	5月27日(月)	令和5年度決算監査
6月	6月7日(金)	第1回運営委員会
	6月8日(土)	面接審査
	6月12日(水)	派遣学生決定
	6月13日(木)	令和6年度総会 令和5年度派遣学生成果報告会
7月	7月13日(土)	事前ガイダンス(安全講習、計画紹介等)
	7月31日(水)	事務手続き説明会(所属学校担当者対象)
11月	11月16日(土)	グローバルキャリアフェア in 岩手
12月	12月9日(月)	グローバルキャリアフェア 事後オリエンテーション 県内学生と企業とのワークショップ
1月	1月14日(火)	第1回グローカル人材育成プロジェクトチームミーティング
	1月16日(木)	外国人留学生等の県内企業訪問(みちのくコカ・コーラボトリング㈱ 花巻工場)
	1月30日(木)	第2回運営委員会
2月	2月17日(月)、18日(火)	JETプログラム参加者、外国人留学生等を対象としたインターンシップ
	2月20日(木)	令和7年度派遣募集案内開始
3月	3月26日(水)	募集説明会(盛岡大学)

※水色：海外留学支援事業に関する取組 ※橙色：外国人留学生等の定着支援事業に関する取組

## 「いわてグローカル人材育成推進協議会」会員企業・団体

令和6年6月1日現在

### 第1号会員

#### 団体

公益財団法人岩手県観光協会  
岩手県商工会連合会

一般社団法人岩手県建設業協会  
岩手県中小企業団体中央会

岩手県商工会議所連合会

#### 企業

I G R いわて銀河鉄道株式会社  
いわぎん事業創造キャピタル株式会社  
株式会社岩手日報社  
及源鋳造株式会社  
さいとう製菓株式会社  
白金運輸株式会社  
株式会社中央コーポレーション  
東北リゾートサービス株式会社  
株式会社南部美人  
株式会社ミクニ  
株式会社盛岡地域交流センター  
リコインダストリアルソリューションズ株式会社花巻事業所

アイシン東北株式会社  
株式会社岩手銀行  
株式会社岩手ホテルアンドリゾート  
株式会社北日本銀行  
株式会社 JTB 盛岡支店  
株式会社たまごファクトリー  
株式会社テレビ岩手  
株式会社トーノ精密  
株式会社日ピス岩手一関工場  
みちのくコカ・コーラボトリング株式会社  
株式会社柳家

株式会社アイビーシー岩手放送  
岩手県北自動車株式会社  
株式会社いわてラボ  
株式会社ゴーイングドットコム  
株式会社十文字チキンカンパニー  
株式会社千田精密工業  
株式会社東北銀行  
株式会社ナレロー  
株式会社ベスト  
盛岡ターミナルビル株式会社  
谷村電気精機株式会社  
和同産業株式会社

#### 機関

岩手県

岩手大学

公益財団法人岩手県国際交流協会

### 第2号会員

#### 団体

一般社団法人岩手経済同友会  
岩手県中小企業家同友会  
独立行政法人国際協力機構東北センター

一般社団法人岩手県医師会  
いわて高等教育コンソーシアム  
公益財団法人ふるさといわて定住財団

岩手県森林組合連合会  
公益財団法人いわて産業振興センター

#### 企業

株式会社アイシーエス  
株式会社岩手めんこいテレビ  
株式会社小林精機  
株式会社西部開発農産  
株式会社東亜電化  
東京海上日動火災保険株式会社盛岡支店  
花巻温泉株式会社  
富士通 Japan 株式会社

岩手県空港ターミナルビル株式会社  
川嶋印刷株式会社  
三陸鉄道株式会社  
株式会社タカヤ  
東京エレクトロンテクノロジーソリューションズ株式会社  
東北電力株式会社岩手支店  
富士フィルムビジネスイノベーションジャパン株式会社岩手支店  
株式会社ユアテック岩手支社

岩手県産株式会社  
けせんプレカット事業協同組合  
株式会社ジャパンセミコンダクター  
株式会社デンソー岩手  
株式会社長島製作所  
株式会社吉田測量設計

#### 市町村

盛岡市  
北上市  
雫石町  
西和賀町

大船渡市  
一関市  
紫波町  
軽米町

花巻市  
奥州市  
矢巾町

## いわてグローカル人材育成推進協議会

令和 7 年 6 月

Email glocal-iwate@iwate-ia.or.jp  
URL <https://iwate-glocal.jp/>

- 岩手県ふるさと振興部国際室内 〒020-8570 盛岡市内丸 10-1  
TEL 019-629-5765 FAX 019-629-5254
- (公財) 岩手県国際交流協会 〒020-0045 盛岡市盛岡駅西通 1-7-1  
いわて県民情報交流センター（アイーナ）5階  
TEL 019-654-8900 FAX 019-654-8922